

History 新野左馬助親矩

キラリを再発見

特別編



藤枝市の「新野」地名と新野屋敷

藤枝市北方に「新野」という小字がある。そこはかつて新野氏の屋敷があった場所とされる。現在は同市下之郷にある長慶寺の看板(写真上)で、新野屋敷の存在を確認することができる。

さて、同市花倉にある遍照寺には、今川氏2代範^{のり}氏とその子氏家の墓(写真下)がある。駿府に居館を構える前の約60年間、今川3代泰範^{やすのり}までの「今川館」が付近にあったとされる。その一帯には松井屋敷や矢部屋敷、大楊屋敷など有力家臣の屋敷、少し離れて新野屋敷があり、城下集落を形成していたと考えられる。

この頃の新野氏は、今川初代範^{のり}国の従兄弟の俊国^{とくに}が「弾正 少弼号新野」と初めて「新野氏」を名乗る。初代範国と同じ世代であり、今川一族として行動を共にしたのであろう。新野氏初代俊国が、御前崎市新野と関わりを持った理由は不明であるが、鎌倉御家人であった新野氏との婚姻説、また、關所となっていた新野氏の土地を領有した説がある。

※關所：領有者のいない所領のこと。



▲花倉付近の地図(長慶寺説明看板から抜粋)



▲遍照寺の範氏・氏家墳墓

大河ドラマ「おんな城主 直虎」
応援プロジェクト

照会 社会教育課 ☎0548⑥1129

Atomic

暮らしと原子力

原子力災害における緊急時対応の
取りまとめなどを国へ要望

市では、原子力発電所の重大事故などによる原子力災害の発生に備え、原子力災害広域避難計画を策定しました。市の防災機能の強化に加え、避難手段の確保や県内外の避難先に配備する備蓄品の購入、防災倉庫の整備などの対策も必要となります。市長と市議会の代表は4月24日、広域避難計画の実効性を高めるために、内閣府と資源エネルギー庁に要望書を提出しました。

- この要望を受け、内閣府は「浜岡原子力発電所の周辺11市町は人口の多い地域。多くの住民が安心できる計画を作りたい。財政的支援の仕組み作りを進めている」また、資源エネルギー庁は「原子力への理解活動は非常に大切。必要に応じて国も説明を有効活用してもらいたい」と話しました。
- 【要望事項】
- 内閣府
 - 1、浜岡地域原子力防災協議会の開催
 - 2、原子力災害対策に係る補助金の拡充
 - 資源エネルギー庁
 - 1、浜岡地域原子力防災協議会の開催
 - 2、バックエンド対策などの早期解決
 - 3、国による浜岡原子力発電所の必要性に対する説明
 - 4、電源三法交付金の拡充



▲内閣府へ要望書を提出する
柳澤市長と市議会代表